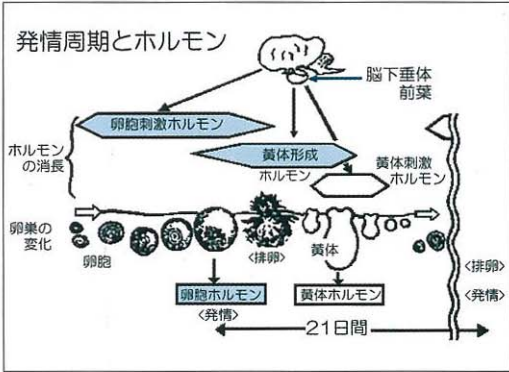


# 牛が教える「性教育」PART2



牛の発情は約二十一日おきに訪れます。これは卵巣の定期的な変化によって誘発されるもので、この定期的な変化を性周期または発情周期と呼びます。

卵巣の変化にはホルモンが関与しています。卵巣内には多くの卵子の素（もと）が存

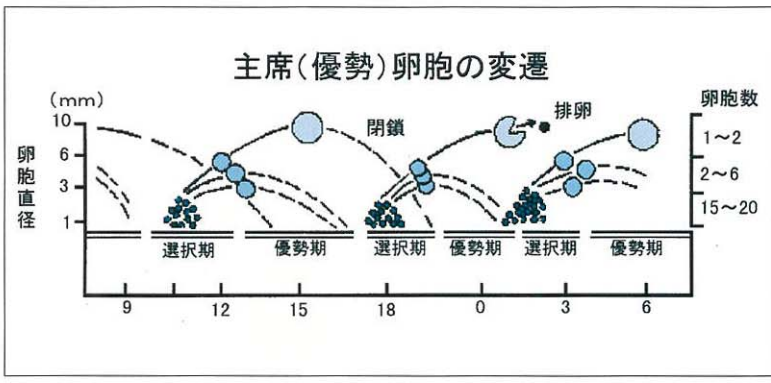
■周期はホルモンの作用で起きる

前回、牛が教えてくれる発情兆候を書きました。今回は牛の発情がどうして起こるかを説明します。

発情が終了した六〜十時間後くらいに成熟卵胞は破裂して、卵子を子宮に送り出します。その後卵胞は収縮し、黄体形成ホルモンの作用によって黄体となります。この黄体から黄体ホルモンが分泌されると、子宮は妊娠の準備を始めます。そこで、卵子と精子が結合（受精）したら、妊娠黄体として妊娠を維持させる作用のあるホルモンを出し続けます。しかし、受精が不成立だった場合、黄体は退縮し、再び、卵胞刺激ホルモンによる卵胞の形成が始まります。そして成熟卵胞ができた段階で、発情と排卵が起こります。この排卵と排卵の間隔が、

■授精出来るのは優等生？

直腸検査でしか卵巣の様子が分からなかった時代には、卵子の素（原始卵胞）から卵胞が出来て成熟卵胞になるまで、一つの卵胞が大きくなって



牛では約二十一日になるわけです。

よく農家でこんな質問を受けます。「卵は在るどかの？」「卵はどげじゃるか？」「授精師さんが卵が無いと言ったちゃけんど」等々・

それぞれ答えは「卵はいつでも在ります」「その卵が一番良い卵かどうか、判りません。性周期との兼ね合いで考えて見ないと・・・」「卵はいつでも在ります。直腸検査で分からないだけです」ということです。

■授精出来るのは優等生？

その結果、牛は一性周期に二回か三回、卵胞が成長する周期があります。それを卵胞波（ウェーブ）と言います。実際に受精出来るのは、その卵胞波の中でもたった一つの成熟卵胞（主席卵胞）だけです。卵胞のエリートと言う事でしょうか？

（緒方獣医師）